

A-4. 「トマト家族を育てよう」(脇芽を探って)

山鳩保育園(京都府八幡市)

[3~5歳児]

昨年度、脇芽で新しいトマトが出来ることを知り、トマト家族を育てることに非常に关心を持って孫トマトまで育てたいと、がんばったが育てることが出来ず、とても悔しがっていた。

トマトの種まき [3~5歳の混合グループ]

①トマトの種まきをする前に 昨年度「どうして、孫トマト(赤ちゃんトマト)までできなかったのか」話題になり、日あたりや肥料など今年度「どうしたらいいのか」話し合った。人に聞いたり図鑑を見たりして自分で調べるようになる。

②種まき

- ・黒いカップに土を入れ、種を播く。「土は布団だから、優しくそっとかぶせてあげるねんで」「トマトの赤ちゃんが寝ているから、揺らしたらあかんで!びっくりするから?」ビニールに穴をあけ、かぶせる。3つのグループごとに箱にわけて、部屋におく。植物を人間に置き換えて大切に扱うということが、少しずつ出来るようになった。
- ・水やりをする。霧吹きで、水やりをしながら、「芽出えへんなあ」「赤ちゃんやし、いっぱい寝てるんかなあ」と毎日じっと見つめる。

③芽が出た…1 グループのみ。芽が5つ出る

「やったー!ストーブの丁度下やから、一番暖かくて、芽が出たんと違うか?」「水色も、ポケモングループも、もう1つの、ストーブの丁度下に置いたらいいねん」「椅子よりも机のほうが高くて、ストーブに近くなるし、暖かい!」一番高い机に箱を載せて、もう1つのストーブに向きを合わせ、すぐ下に置いた。

(3歳児) トマトを見にくる。「お兄ちゃん、ポケモングループ、芽、でた?…」

(4歳児) 「まだやねん。水あげような」一緒に水やりをする。

④やっと芽が出た…他のグループも芽が出た

「やっと芽が出た…?」ストーブの下にして良かったなあ。「もう1つ芽(体で表現して)こうやって丸くなっている。今な、がんばって、土を持ち上げてるねんで」。「芽が2つになってるものもあるで!」「アッ!ぱかって割れてる?」トマトの成長や芽のわずかな変化にも気付いて騒いでいる。

- ・芽の絵を描いて見たい (3/22) 家族の芽を描くことになった。虫眼鏡でカップの中の根っここの絵を書く子が多かった。「根っこが大きかったら芽も大きくなるもん」。「でも、この黒いカップ、小さいから、根っこは長く伸びられへんもん」「根っこが伸びれるように、カップの底を切って大きい箱に入れたらいねん」「それやったら、外の方が、もっと広いし、いいやん」外で、芽を植える場所探しをすることになる。

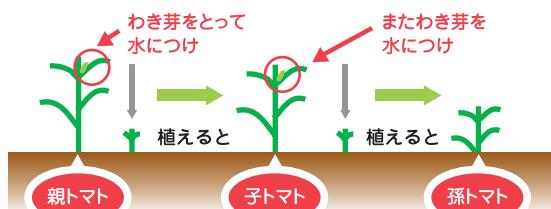


・どこに植えようかな? (4/7) 「根っこが伸びて、芽が大きくなる広いところがいい」「お日様のあたるところがいい」「ちゃんと土のあるところがいい」外で芽を植える場所探しをした結果、乳児棟の前の花壇に決定。「ここやったら、柵があるから、赤ちゃんが遊んでも、入れへんし、大丈夫やな」

・大きくなってきた芽を植え替える (4/12) 「種から育てたトマトと、苗で届いたトマト、一緒に植えたらどっちがどっちか、わからなくなっちゃうね」「じゃあ、種の芽と苗と場所を2つに分けて、看板を立てたらいいね」「『トマト家族』の看板も作りたいなあ」種と苗、場所を分けて植え、看板も作ることになった。

脇芽、みつけた…脇芽を育てよう

①脇芽ってどれ? (4/26) 苗が大きくなり、茂ってきたのでみんなで「脇芽探し」が始まる。どれが脇芽か、区別の付かない子がほとんどだったが、保育士と一緒に見つけ「これ、脇芽、水につけたら根っこが出てくるん?」と、脇芽の下部を、じっと見る。「どんな入れ物だったら、根っこが生えたことわかるかな」「中が見えるやつ、透明のやつらしいよ」「どこ置いとく?」すぐに園庭の端にある、プランターが乗せてあるU字ブロックの所に行き「ここやったら赤ちゃんが間違って、勝手に触れへんし大丈夫やで」「園庭で遊んでいる時も、すぐに見にこれるしな」U字溝の中に、透明の瓶に入れて置くことになった。



②脇芽を調べたい! 脇芽について図書館で調べる。なすにも脇芽があることを知る。両手を広げて「こうなってるのが、脇芽なんや」と、手で表現する。

③根っこがでた! (4/28) 脇芽の根っこが見えてくる。透明の瓶を持ち上げ、下からのぞくと根は出てない。(5/6)、根が1センチほど出ているのを発見「ウオッ! 根っこが出たあー!」「早く土に植えよ」「あかんで! まだ根っこ短いもん。もうちょっと水につけとい て、長くなるのをま とっこ!」もうしばらく待つことにする。根っこが5cmほどになり「もう、土に植えれるやんな?」と土に植える。



芽が折れちゃった

みんなが毎日取った脇芽にたくさん根が出たので、植え付けをする。脇芽探しに夢中になり、トマトの花のついた茎を

折ってしまった。「折れちゃった。この茎どうしよう」「脇芽は水につけたら、根っこが出てくるし、茎も水につけたら根っこが出てくるかも知れへん。出てきたら、又、土に植えたらいいねん」茎を水につけ様子をみることになった。

①茎に根は生えてこず水に溶けてふにやふにやになる (5/16)
「おかしいな脇芽ったら、根っこ出るのに」「脇芽しか、根っこは出てこないへんのと違うか」

②折れた茎を土に植えて、様子を見ることになる (5/17) 「折れた茎、水につけるのは、うまくいかなかったけど、土に植えたら、根っこが出てきて、元気になるかもしれない！」「元気になってなー！」と、土をたたく。

③脇芽の植え付け…みんなが毎日とった脇芽にたくさん根が出たので、植え付けをする。「大きくなつてほしいから、根っこが長い方がいいな」根の長い方を選んで植える姿が見られる（栄養を根から吸い上げていくということを感じている）名前を貼り、「自らのトマト」を作れたことで、楽しみも倍増したが、その分「トマトが枯れたらどうしよう」「自分のは大丈夫かな」と心配し、水遣りを気にする姿が見られる。

④支柱を立てよう…「先生、このトマト、横に倒れてるから、まっすぐにあげなあかんなあ」「支柱が風で飛んでいかんように、後ろのフェンスにくっつけとこう」と、フェンスと支柱を結びつける子がいた。支柱は自分たちで、奥まで押し込んでおり、茎に近すぎず、遠すぎず、よい場所に立てていた。（支柱の意味や必要性も理解できている）また、「風に飛ばされる」など、自然に対する心配も子どもの中で出てきており、予測して、それを防ごうとする姿も見られた。

トマトの青い実を2つ発見。「もうトマトなってるで！めっちゃ可愛い！」外にもトマトがなっていないか探すが、結局2つだけ。「トマトのなってる所を覚えておかなあかんな」と言って、支柱の数を数えながら、8つ目の支柱の所と覚えた。「トマト大きくなるの早すぎやわ、でも、まだ、こっちの背高いで」と、うれしそう。

虫眼鏡で発見 [白いもの発見]

①芽の絵を描きたい…芽を描いていると、「ここ、何か、ギザギザになってるで！」「ほんまや、何か白いものみたいなんあるで」「え～、見えにくい」「虫眼鏡やったら、よく見えるで」虫眼鏡を使って観察する。「この白い毛って何？」「本で調べたらいいやん！」「じゃあ、調べたら白い物の事教えてね」

②「トマト」という本を見つける (4/26) やっと、白い毛



は「虫が嫌いな匂いを毛から出して、虫を近づけないようにしている」ということがわかる。「白い毛って、どんな匂いなんやろ？」「匂いに行って来る。」白い毛に鼻をくっつけて、白い毛を指でこすって

その指をかいでみたりし「うわあっ！くさ！」「違うで、これはトマトの匂いやで？」「虫には、臭い匂いなんかあ」と話す。

③アゲハチョウが飛んでくる (5/10) アゲハチョウは、何度も葉にとまりそうになる。「臭い匂いがしてるんかなあ？アゲハチョウ、とうとう、トマトにとまらんかった」アゲハチョウは、葉の周りは飛ぶが、とまるることはなく、違う所に飛んでいった。「すごい！きっと、臭い匂いがしてたんやろなあ。止まらんかった、トマトってすごい！」「子どものトマトができてきたよー！」子トマト第一号が少し赤くなってきた。「うれしい～、一番やで！」

④アリが、トマトの中にいる (6/28) トマトの収穫時、アリを見つける。「アリが食べてるわ！白い毛はくさくなかったんかなあ」「トマトがいい匂いやから、臭い匂い、消えたんちがう？だからトマトの花壇の端に団子虫もいっぱいいるんやわ！トマトおいしいもんなー」アリが食べるよう



トマトを置いておいてあげる。

トマトが、赤くなった(6/15)



赤いトマト1個、オレンジトマト4個生る。

赤は「めっちゃおいしい」オレンジは「にがーい！」「ちゃんと赤くならなあかんねんなピーマンや、南瓜に似たトマトや！」3歳児が、間違って青いトマトを取ってしまうと、5歳児が「大丈夫やで、赤くしたらいいねん、トマトは水をあげたら大きくなるから水に入れてみたら…？」水を入れたカップに青いトマトを水につけ、窓辺の日の当たるところにおく。トマトの色は変わらず、水が白くなるだけだった。「先生！本にのっていたで、青いトマトは、そのまま部屋においていたら、赤くなるねんで！」「おばあちゃんに聞いたけどな、トマトが上方だけ青かったら反対に向けたら、赤い色が下に落ちてきて、全部赤くなるねんて」実験してみよう。

ポイント

前年度の「脇芽でトマトの家族をつくる」という目的が薄れることなく、最後までトマト栽培を意欲的に楽しめたことがとてもよく分かります。栽培の経過の中で、①種から苗からの2つの方法で栽培を始める②子ども同士で情報交換をしながら脇芽採りを進め、根の様子、脇芽と茎の違いに気付く③トマトの白い毛に気付き調べる④トマトの実について知っていること知らないことに気付く>という多くの気付きや疑問の追究をして、トマトを大切に栽培し「科学する心」が育ったことが伝わります。